



楷樹 (山崎記念館前)

The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

肥後医育ニューズレター

(題字 元理事長 徳臣晴比古)

発行所 公益財団法人肥後医育振興会
〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号
TEL・FAX (096) 373-5425

ホームページ <http://www.119higo.com/>

発行人 理事長 西 勝英 編集人 宇宿 功市郎
印刷所 ㈱城野印刷所 TEL (096) 286-3366(代)

理事長挨拶



公益財団法人「肥後医育振興会」は本年度をもちまして創立二十五周年を迎えることとなりました。創立以来、永きにわたりご援助、支援していただきました皆様深く感謝いたしますと共に、今後ともご指導

ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

本財団は熊本大学医学部創立百周年を記念いたしました。熊本における医学研究、医療の充実、市民への正しい医学情報を提供することを目的として発足いたしました。発足当時、大学は改革の中にあり、大学医学部としての在り方に大きな期待が寄せられていた時期でもありました。そこで、諸先進国では大学の運営に大きな役割を果たしている「財団」を模範に公益法人「肥後医育振興会」を設立したのであり、大学運営に財政的寄与と社会的貢献を果たすことが期待されているところであります。

特に熊本県民に対する正しい医学情報提供として、熊本日日新聞社、一般財団法人化学及血清療法研究所との共催で開催しています「肥後医育塾」は開催

理事長 西 勝英

七十回を重ね、県民に対してメディアを通じての啓蒙に大いに寄与しているものと自負しています。この二十四年にわたり多くの情報を提供していただいた全国の医学・医療関係者並びに熊本地域の医療関係者による援助の賜物と感謝しています。

特に本年初頭より新型コロナウイルス感染が蔓延し、様々な情報が飛び交う中、本年三月二十九日肥後医育振興会並びに熊杏会(熊本大学医学部医学科同窓会)との共催で北里柴三郎博士顕彰記念講演会として「新型コロナウイルス感染症について」専門家による正しい医学情報の提供を無観客で開催し、熊本日日新聞との協力の元に収録した講演内容を紙面に掲載すると同時に映像として発信しました。約五千件以上のアクセスがあり、好評でありました。今後医学情報の新しい発信方法として、活用していきたいと考えています。

本年初めより新たな感染症としてコロナウイルス感染症の問題が世界的な恐慌をまねいており、毎日メディアでは多くの情報が飛び交い、政府並びに各自治体の対応も錯綜している状態が続いています。このような状況

況下において如何に正しい医学情報を県民の皆さん並びに医療関連に従事する皆さん方に発信し啓蒙することも本財団の使命であり、研究面での支援事業、医学関連教育支援等の充実を図らなければならぬと思っております。

私事になりますが、私は平成十五年定年退職し、以来十七年にわたり高齢者医療の現場で働いてきました。この度の新型コロナウイルス感染症については、特に高齢者では重症化し易い傾向が明らかとなっており、日々の診療に十分の配慮を行って感染予防策に取り組んでいます。

幸いなことに現在まで(七月二十日)熊本県では感染者は五〇名であり、新規感染者はなく、特に重症者の報告はありません。おそらく多くの県民の皆さん方の感染症予防対策の徹底と予防法を守っていることの表れだと思います。

一方、ここで殆どメディアにも医学界からも伝えられていない季節インフルエンザについて、高齢者医療の現場より一言注意を喚起したいと思えます。

わが国では例年季節インフルエンザに罹患する人は、年により変化はありますが、年間約一千万人程度(厚生労働省統計より)、その内インフルエンザで直接または関連で亡くなる方は三千〜一万人(今季は約三千

人)に達することがあり、その内八〇%が八十歳以上の高齢者であることです。ある年では一日五七人の死亡者が出ているのです。それに比べて現在の新型コロナウイルス感染の死亡者は極めて少ない状況であり、如何に季節インフルエンザが高齢者にとって危険な感染症であるか判ります。

尚、ワクチンの予防効果も問題があり、ワクチン接種の有効率は、アメリカ疾患予防管理センターの研究によれば、インフルエンザワクチン接種の有効率は四〇%程度との報告があり、わが国でもある年の有効率は三〇%程度であったとの不確定情報があります。いずれ、季節インフルエンザ関連についての情報を提供したいと考えています。今後、新型コロナウイルスとの共存の時代に入り、様々な対策が講じられることになっていくと思われれます。このような時期にあたり、本財団としましてはより正しい医学情報を県民の皆様方に提供できるよう、更に微力ながらも研究面での支援に貢献できるよう努めて行きたいと考えています。

つきましては、諸団体、財界からの寄付、援助をお願いして財政的充実を図りたいと思っております。ますますの皆様方のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。